

2019 年度 宇部市ジュニアグローバル研修 派遣報告書



オーストラリア・ニューカッスル市
令和元年（2019年）8月5日～8月14日

目 次

◆ 派遣者名簿	3
◆ 研修日程	4
◆ 派遣日程	5
◆ 活動日誌	6
◆ 派遣生徒報告	
川上中学校 大原雅武	11
宇部フロンティア 大学附属中学校 繁永圭亮	12
厚南中学校 杉谷唯衣	13
川上中学校 田中千羽	15
藤山中学校 長谷川麻菜	16
常盤中学校 藤田真凧	17
厚東川中学校 藤本周彬	18
慶進中学校 益田理澄	19
慶進中学校 松井都晏	20
川上中学校 村中佑衣	22
◆ 引率教諭報告	
宇部市教育委員会 上利初代	24
常盤中学校教諭 惠藤哲彦	26
◆ 資 料	29

2019年度ジュニアグローバル研修事業派遣生徒
(ニューカッスル市派遣)

氏 名	ふりがな	中学校	学年
大原 雅武	おおはら まさたけ	川上中学校	2
繁永 圭亮	しげなが けいすけ	宇部フロンティア大 学付属中学校	3
杉谷 唯衣	すぎたに ゆい	厚南中学校	3
田中 千羽	たなか ちはね	川上中学校	3
長谷川 麻菜	はせがわ まな	藤山中学校	3
藤田 真凧	ふじた まな	常盤中学校	2
藤本 周彬	ふじもと ひろあき	厚東川中学校	3
益田 理澄	ますだ りずむ	慶進中学校	2
松井 都晏	まつい とあ	慶進中学校	2
村中 佑衣	むらなか ゆい	川上中学校	2

引 率

氏 名	ふりがな	所 属
惠藤 哲彦	えとう てつひこ	常盤中学校
上利 初代	あがり はつよ	宇部市教育委員会

研修等 スケジュール

月日	曜日	行事	参加者
6月4日	火	1800-2000【ガイダンス】@宇部市役所 2階 第1会議室	派遣生徒 引率教諭 保護者 旅行者
6月15日	土	1330-1700【事前研修 #1】@宇部市総合福祉会館3階 講習室 ・自己紹介 ・ワークショップ(プレゼンテーション作成) ・アトラクション説明	派遣生徒 引率教諭
6月29日	土	1330-1700【事前研修 #2】@宇部市総合福祉会館2階 ボランティアセミナールーム(小) ・目標設定 ・ワークショップ(プレゼンテーション練習) ・アトラクション練習	派遣生徒 引率教諭
7月19日	金	1730-2030【事前研修 #3】@宇部市総合福祉会館2階 ボランティアセミナールーム(大) ・ワークショップ(プレゼンテーション練習) ・アトラクション練習 ・英会話レッスン	派遣生徒 引率教諭
8月2日	金	1430-1530【壮行会リハーサル】@宇部市役所 4階 委員会室 1530-1630【壮行会】@宇部市役所 4階 委員会室 ・各自の目標発表 ・プレゼンテーション披露 ・引率者挨拶 1630-1730【事前研修 #4】@宇部市役所4階 委員会室 ・最終確認	派遣生徒 引率教諭 保護者(リハーサル除く) 【壮行会のみ】 市長、教育長 議長、国際交流委員
8月5日	月	【出国】 1640 集合@山口宇部空港ANAカウンター前 1740-1920 山口宇部空港→羽田空港 (NH700) 2230-**** 羽田空港→シドニー空港 (NH879)	派遣生徒 引率教諭
8月6日	火	****-0855 羽田空港→シドニー空港 (NH879) ・自治体国際化協会(CLAIR)シドニー事務所視察 ・日本政府観光局視察 昼食後移動 1515-1749 セントラル駅→ニューカッスル・インターチェンジ駅	派遣生徒 引率教諭
8月13日	火	【帰国】 0924-1159 ニューカッスル・インターチェンジ駅→セントラル駅 昼食・簡単な市内観光後移動 2055-**** シドニー空港→羽田空港 (NH880)	派遣生徒 引率教諭
8月14日	水	****-0525 シドニー空港→羽田空港 (NH880) 0720-0900 羽田空港→山口宇部空港 (NH3811)	派遣生徒 引率教諭
8月19日	月	1300-1700【事後研修】@宇部市総合福祉会館2階 ボランティアセミナールーム(小) ・自己評価 ・ワークショップ“ジュニアグローバル研修の成果”	派遣生徒 引率教諭
8月23日	金	1230-1330【帰国報告会リハーサル】@宇部市文化会館 研修ホール 1400-1500【帰国報告会】@宇部市文化会館 研修ホール ・主催者挨拶 市長、友好協会会長 ・帰国報告 引率教諭 ・派遣生徒による報告	派遣生徒 引率教諭 保護者 【帰国報告会のみ】 市長、教育長 議長、国際交流委員

滞在中スケジュール

月日	曜日		宿泊先
8月5日	月	【出国】 1640 集合@山口宇部空港ANAカウンター 1740-1920 山口宇部空港→羽田空港 (NH700) 2230-**** 羽田空港→シドニー空港 (NH879)	機内
8月6日	火	****-0855 羽田空港→シドニー空港 (NH879) ****-1030 シドニー空港→自治体国際化協会 (CLAIR) シドニー事務所視察 (専用車) ・自治体国際化協会 (CLAIR) シドニー事務所視察 ・日本政府観光局視察 昼食後移動 1515-1749 セントラル駅→ニューカッスル・インターチェンジ駅 ・ホストファミリーと対面	ホームステイ
8月7日	水	ハイスクール通学	ホームステイ
8月8日	木	ハイスクール通学	ホームステイ
8月9日	金	【ニューカッスル市役所】 ****-1030 ニューカッスル高校→ニューカッスル市役所 (バス) 1030-1130 ニューカッスル市役所表敬訪問 ・プレゼン、アトラクション披露 ****-1150 ニューカッスル市役所→ニューカッスル大学 (バス) 1150-1230 昼食 1230-1430 ランゲージセンター見学 1430-**** ニューカッスル大学→ニューカッスル高校 (バス)	ホームステイ
8月10日	土	ホストファミリーと過ごす	ホームステイ
8月11日	日	ホストファミリーと過ごす	ホームステイ
8月12日	月	ハイスクール通学	ホームステイ
8月13日	火	【帰国】 0924-1159 ニューカッスル・インターチェンジ駅→セントラル駅 昼食・簡単な市内観光後移動 2055-**** シドニー空港→羽田空港 (NH880)	機内
8月14日	水	****-0525 シドニー空港→羽田空港 (NH880) 0720-0900 羽田空港→山口宇部空港 (NH3811)	-

活動日誌

8月5日 担当：益田 理澄

今日は日本最後の日！これから長いフライトを経てオーストラリアに到着予定！とてもワクワクドキドキ。宇部空港で家族と別れるとき、恥ずかしくてずっとへらへらしていました。だけど、いざ離れるときは少しさみしかったです。

羽田空港に到着して和食を食べようと思いましたが、やっぱりモスバーガーに行きました。めちゃくちゃおいしかったです。モスバーガーの店内はすでに客の8割が外国人で色々な言葉が飛び交っていました。

シドニー行きに乗っていざ出発。

8月6日 担当：松井 都晏

長い長いフライトが終わり無事にシドニーに着きました！日本よりだいぶ寒くて生活していけるか不安です。シドニーは宇部よりものすごく都会で景色がきれいでした！

シドニーでちょっとした食事をするとき、ケンタッキーを頼んだのですが、なぜか少し緊張していました…。日本人というインパクトが大きかったのか、店員さんに顔を覚えられました。昼食が終わってニューカッスル行きの電車でみんな爆睡でした。

やっとホストファミリーのみなさんと合流し、晩御飯の食材を買ったり、少し英語でコミュニケーションを取ったり、少しずつオーストラリアの生活に慣れていこうと思います！昨日までの夏が信じられないくらいオーストラリアが寒くてこれからが少し怖いです…。明日起きられるのか心配です。

8月7日 担当：藤田 真凧

朝ごはんにはベジマイトを食べた！思っていたよりおいしくて好きだった。

今日のはじめて高校に行った。音楽の授業では、アボリジニの楽器を演奏してもらった。女の人にはできなくて残念だったが、息の使い方だけで色々な音を出せてすごいと思った。家庭科ではホストシスターのジョージーナ達とアンザックビスケットを作った。甘くておいしかった。日本語の授業ではオーストラリアのオススメのものを紹介する動画を見て、色々食べたいと思った。印象的だったのは、休憩時間になるとみんな外に出て何かを食べていたことだ。私もカップケーキは食べたが、バナナとみかんとチップは食べきれなかった。また、授業中も日本より自由な感じだった。

学校の後、ジョージーナと村中さんとホストシスターのイマジェンと歩いて海に行った。すごく広くてきれいだった。しばらく遊んで家でトランポリンをした。すごく大きくて、とにかく楽しかった。

夜ご飯にはミートパイとトッピングを手伝った。ババロアを食べた。

今日もすごく充実した一日だった。明日はもっと聞き取りたい。

8月8日 担当：大原 雅武

オーストラリア3日目で学校生活でもたくさんの人に話しかけられました。ウィルが分かりやすく話してくれて、たくさん友達ができました。

今日はアボリジニの武器であったブーメランを投げました。返ってこなかったけど上手に投げられました。そして、2時間かけて街を観光しました。丘の上から見た景色はすごく、海、街、そして森がすべて見えました。とてもきれいでした。またいつか行きたいです。

夕方、ウィルとフレッドと一緒にゲームをしました。みんなでマイクラフトで家を作りました。

夕食は、ステーキを食べました。ニックが作ったステーキは、とてもステキでした。

8月9日 担当：繁永 圭亮

今日はシティホールで市長に会い、プレゼンテーションとリコーダーをした。ちょっとだけ緊張した。シティホールはとてもでかくて感動した。プレゼンテーションとリコーダーをした後、市長から本とペンと USB をもらった。街のデザインでとてもかっこよかった。その後、もらった本にサインをしてもらった。名前も書いてもらったしコメントもしてもらったので嬉しかった。この研修では色々なものをもらいすぎて申し訳ないと思ってしまう。

その後、ニューカッスル大学に行った。とても大きかった。色々見たが、図書館が一番印象に残っている。

ニューカッスルハイスクールに戻った後、ニューカッスルミュージアムに行った。ソラールみたいに色々なものがあって面白かった。

その後、レボリユーションという場所で久しぶりにトランポリンをしたので楽しかった。日本と規模が違うなど思った。バスケのダンクなどもした。

家に帰った後、ホームパーティーがあった。ごはんを食べ、ゲームや卓球をした。本当に楽しかった。他の派遣生もいたので安心した。ずっとここにいたいと思いはじめた。

8月10日 担当：杉谷 唯衣

イマラの家族と長谷川さんでラミントンケーキを作りました。夜の BBQ パーティーに持っていくために1から教えてもらいました。BBQ パーティーには宇部の生徒もたくさんいて、トランポリンをしたり、パンにカンガルーミートの肉をはさんで食べたりとたくさんのかんことをしました！おかげで、みんなと仲良くなって、覚えた英語や生活を通して学んだ英語で楽しく会話をすることができました。

家ではトランプのカードゲームをして「神経衰弱」や「ババ抜き」を教えて遊びました。とても盛り上がりました。ホストファミリーも本当の家族のように接してくれて感謝の気持ちでいっぱいです。

8月11日 担当：藤本 周彬

今日は研修6日目。ホストファミリーといられる時間はもう長くない。

今日はハリー達のサッカーチームの試合だった。朝起きていつも通りチョコシリアルを食べた。しばらくしてからホストファミリーのお母さんとアレックスと一緒に試合を見に行った。残念ながら4対1で負けてしまった。

家に帰ってから、ウインナーとビーンズとチーズトーストを食べた。アレックスとゲームをしていたら、けいちゃんが来た。その後、けいちゃんのホストファミリーと僕のホストファミリーで出かけた。きれいなビーチ（雨）やショッピングセンターに行った。買っていなかったお土産も買った。その後、急ぎよ実写版ライオンキングを見ることになった。とても面白かった。その後、家に帰るのかと思いきや、外食することになった。そういえばなんかそんなことを言っていたなあとと思った。オーストラリアのビンゴをして、いろいろ食べた。中華料理店（雰囲気はイタリア料理店、名前は THURSDAY MEMBERS）だったので、アジア系の料理が多かった。グリーンチキンカレーと野菜スープ、ビーフカレーが鍋で出てきた。とてもおいしかった。驚いたのは、食べ残したものをタッパーに入れて持ち帰れることだ。本当にびっくりした。その後、お坊さんめぐりをした。札と本をあげることにした。とても感謝されて嬉しかった。

8月12日 担当：村中 佑衣

今日は最後の学校だった。ホストシスターと一緒にブラックパットという動物園に行った。見たこともない動物がたくさんいてよかった。そして、10月に自分の家にステイするベラさんと会うことができとても嬉しかった。

その後は、ホストシスターとカードゲームで遊び、盛り上がることができた。最初の日には理解できなかったジョークも今日は理解し笑うことができ、とても楽しかった。

今日はジョージナというホストシスターの友達の家で夜ご飯を食べた。この時もジョークに笑うことができた。

夜、歩いてコーヒーショップに行きアップルパイとチーズケーキを食べた。英語って楽しいと改めて思えた日だった。

先ほどは、ホストファミリーにお礼の手紙を書いた。喜んでもらえると嬉しい。悔いのないように明日、お礼を伝えたい。

8月13日 担当：長谷川 麻菜

今日、ついにホストファミリーと別れる日が来てしまいました。朝いつもより少し早く起こされ朝ごはんを食べると家族で写真を撮りました。皆で写真を撮ったけれど、お姉さんのエリザベスが写真を撮ってくれて写真には入らなかったの
で写真と一緒に撮りたいなと思いました。お母さんは仕事で行かなければならな
かったのでそこでバイバイをしました。もう離れるのかと思うと、涙が出てきて
しまいました。でも、ちゃんと見送れたのでよかったです。

今までとは違いエリザベス、妹のアンナ、サラ、お父さんと車で一緒に学校に
行きました。アンナの学校についていってお見送りをしました。悲しかったけど、
笑顔でお別れしたくて笑顔で別れました。

その後、ベーグルを食べに行っておエリザベスと別れました。エリザベスと写真
が撮れてなかったので写真を撮りました。嬉しかったです。

駅でお別れをするとき、サラと離れるのが悲しくて泣いてしまいました。涙が
止まらなかったけど、ちゃんとお別れできたのでよかったです。サラは来年宇部
にくるらしいので待っています。

8月14日 担当：田中 千羽

シドニー空港から羽田空港に戻ったとき、暑くて日本人がたくさんいてオース
トラリアではないのだと実感しました。羽田空港から宇部空港までは短く感じま
した。その飛行機から、初めて上から見る四国や大阪湾がきれいに見えました。

宇部空港に着いて家族に会いました。そこで、10日間、たくさんの思い出を
作った大切な仲間と別れることになりました。少し悲しかったけど、事後研修で
元気に会えることを祈りました。

派遣生徒報告

川上中学校 2年 大原 雅武

今回、初めてのホームステイとオーストラリアの学校通学は、とてもいい経験になり、今までより大きく成長できたと思います。それは英語の必要性を実感し、初めは「Perdon」や「Sorry」と言われたときは怖かったけれど、何度も聞くうちに慣れて怖くなくなりました。出発前は、英語が通じなくて友達ができなかったらどうしようと不安な気持ちでいっぱいでした。



シドニーの空港に着き、外に出ると涼しくて気持ち良かったです。

まず、自治体国際化協会（CLAIR）を訪問し、オーストラリアについての説明を受けました。ここであらかじめオーストラリアのことについて知ることができて、とても良かったです。

次に、地下街のフードコートで食事を取りました。そこは主に中国やアジア系のレストランで、オーストラリア国外の料理店ばかりで驚きました。そして、ニューカッスル市のニューカッスル・インターチェンジ駅に着くと、ホストマザーがたくさん待っていました。どの方か分からなく、「優しい人がいいな」「ホストスチューデントはどんな子かな」と考えていると、名前が呼ばれ優しい人で安心しました。家に向かう途中でたくさん声を掛けてもらいました。僕が初めて話した言葉は「プレゼントはいつ渡したらいいですか」です。言い終わるとすっきりしました。

家に着くと、パートナーのウィルはマウンテンバイクの練習でまだ帰宅していませんでしたが、みんな大歓迎してくれました。特に、ホストブラザーのニックが話し掛けてくれました。プレゼントを渡して人気だったのは、紙風船、おもちゃの刀でした。最後に筆ペンをあげようとした時にウィルが帰宅しました。金髪で優しい感じが第一印象でした。ウィルとニックの名前を漢字のあて字にして、筆ペンで紙に書いてあげると喜んでくれました。夕食はラザニアでおいしかったです。

翌日、午前6時15分に起き、朝食に食パン2枚を食べました。僕以外のみんなはシリアルでした。その後、学校の準備をする前に、庭を案内してもらおうと、庭には、トランポリン、卓球台、そして鳥小屋がありました。トランポリンでウィルがバック転を見せてくれ格好良かったです。そして、準備が済むとお母さんが

サンドイッチとビスケットを作ってくれました。いよいよ学校に行きます。

通学は大変で、フェリー、電車、徒歩で行きました。その中で16人ほどに声を掛けられました。みんな違う雰囲気、早口の子や男子でも髪の長い子といういろいろな子がいました。学校は4時間授業で午後3時に終わります。日本と違って1時間ごとが50分ではなく75分間と長いです。給食と掃除がなく、代わりにリセスという1時間ごとに20分間くらいの休憩時間は遊んだり、何か食べたりして楽しかったです。初日は、家庭科でオーストラリアのクッキーを作りました。ナッツが入っていておいしかったです。

音楽の授業も参加して、ディジイリドゥーを演奏しました。この楽器はオーストラリアの先住民アボリジニが木で作ったもので、男性しか触れません。生き物の音なども出せませんが難しいです。学校が終わり、卓球をした後、夕食を食べました。ホストファミリーと箸にチャレンジしました。みんな上手で驚きました。また、寝る時間が早く、8時ごろには寝る習慣があり、異常に早くてあまり寝付けませんでした。

研修6日目、ホストファミリーの経営している農場に行きました。そこには、牛、馬、カンガルーなどがいて、昼にはバーベキューをしました。身近に農場を持っている人はいないので驚き、いい思い出になりました。

研修7日目は動物園に行きました。コアラ、ウォンバット、カンガルー、エミューがいて、特にコアラが木に丸まって眠っていた姿はかわいかったです。

研修8日目、お別れの日です。4日間の学校生活で友達がたくさんできました。ウィルとはメールでやりとりをする、そしてまたここに戻ってくると約束して別れました。とても寂しく悲しかったです。

最後に、このたびの研修は日頃の学校ではできない体験で、発音や英語力が向上できました。また、外国の人に以前は悪いイメージがありましたが、全くなり、また話したいと思うようになりました。一生に一度の経験を生かして、英語力の向上に力を注いでいきたいです。本当にありがとうございました。

宇部フロンティア大学附属中学校 2年 繁永 圭亮

僕はこの研修でとても貴重な体験をすることができ、一生の思い出をつくることができました。生まれて初めての海外だったので楽しみだったけど、不安もたくさんありました。「英語が伝わらなかったらどうしよう」「友達できるかな」などです。そんな不安を抱きながら僕はオーストラリアに向かいました。

ニューカッスル駅に着くと、ホストファミリーが温かく迎えてくれました。そして車の中で話をしていたとき、不安が一つなくなりました。それは意外に話したいことが伝わったということです。そのとき体中の力が抜けるほど安心しました。そして2日目、また不安がなくなりました。それは友達がたくさんできたこ

とです。このような感じで僕の不安はどんどんなくなっていきました。

僕はこの研修を通して文化の違いをたくさん学びました。例えばオーストラリアの人たちは「いただきます」と「ごちそうさまでした」を言わないことです。外国なら当然かもしれませんが、とても違和感がありました。「ご飯を作ってくれてありがとう」とは言っていたので、それが「ごちそうさまでした」と同じ意味なのかもしれません。



また僕は「食」についても学びました。オーストラリアではいろんな種類の料理が出てきました。イタリア料理やメキシコ料理、中華料理などです。多文化社会というものを改めて実感しました。

学校生活も日本と全然違っていました。授業の時間が長く、その分休憩時間も長かったです。休憩時にはみんなリンゴやバナナ、菓子などを食べていました。絶対に日本では考えられないと思いました。あと、制服がジャージーみたいでとても楽だろうなと思いました。けど、ニューカッスルハイスクールの生徒たちは僕たちの制服を格好いいと言っていました。外国には僕たちが着ている制服はないのだろうなと思いました。この楽しいハイスクール生活は、あっという間ででした。たくさんの人が名前でも呼んでくれてうれしかったです。

最後に、この1週間は今までで一番楽しい1週間でした。でも、日本に帰ってきたときは、やっぱり落ち着くなと思いました。日本は日本で良いところだと思います。こういうところも学べました。僕は目標もできました。外国の方と話すときは焦りが出てしまうので、常に自信を持って話すということです。この経験を生かしてこの目標を達成し、これからもずっと英語を好きで居続けたいです。僕たちにこのような機会をくださり、そして支援してくれた皆さま、一緒にオーストラリアに行った派遣生、本当にありがとうございました。心から感謝します。

令和最初の夏休み最高でした。

厚南中学校 3年 杉谷 唯衣

今回の研修事業を通して、たくさんの貴重な体験をさせていただき、とても充実した10日間を過ごすことができました。私は、本当の家族のように接してくれたホストファミリーや、温かく接してくれた多くの方々に出会い、有意義な時間を過ごしました。

シドニーに到着してからホストファミリーが待っているニューカッスルまで電車で行きました。ホストファミリーはどんな家族なのだろう、会ったときにどん

な会話をしようかなど、とても緊張していました。いよいよ対面のときが！ホストマザーとスチューデントのイマラが、笑顔で、とてもフレンドリーに話し掛けてくれて、とても安心して、すぐに不安もなくなりました。

そして、楽しみにしていたハイスクール通学。イマラと電車で登校しました。日本と現地の学校生活では大きな違い



がたくさんありました。授業は4校時までしかなく、授業の間に休憩時間がありました。その間は、家から持ってきたフルーツや菓子を食べてもいい時間でびっくりしました。たくさんの友達が集まって、フレンドリーに話し掛けてくれ、たくさん会話をすることができました。

学校生活はとても自由で、イヤホンを聞いている生徒や後から遅れてくる生徒もいて、日本では考えられないことがたくさんありました。ハイスクールの友達に自分から積極的に話し掛けることで、名前も覚えてくれて、見つけたら話し掛けてくれてとてもうれしかったです。

次に、ホストファミリーと過ごしたホームステイについてです。放課後にイマラが習っているコンテンポラリーダンスというバレエのようなダンスを一緒にしました。ダンスの先生や他の生徒も優しく教えてくれて最高の思い出ができました。

休日には、歩いて行ける近さにビーチがあり、冬でもサーフィンをしている人や、野生のイルカも泳いでいて、びっくりしました。とても海が美しく感動しました。たくさんの場所に連れていってくれて、トランポリン、バーベキューなどを体験しました。バーベキューではカンガルーミートを食べました。シンボルの動物を当たり前のように食べていることに驚きました。普段食べている牛肉と味が似ていてとてもおいしかったです。

時間の経過とともに、英語に少し慣れてきたようで、自然とコミュニケーションを取れるようになっていました。ホームステイ生活の最初の方では話すスピードについていけず、これからどうしようと不安になっていましたが、会話を楽しめるまでになりました。夢だったコアラも見ることができ、ずっと寝ていましたが人形みたいでとてもかわいかったです。

研修の中で数え切れないほどの思い出をつくってくれ、本当にお世話になったホストファミリーに感謝をしています。これからも連絡を取る約束をしたので、交流を続けていきたいです。

自分の英語が伝わらないことや、意味が理解できないこともあり、悔しい思いもしましたが、積極的に話そうとする気持ちが大切だと学びました。そして研修で学んだことや経験したことを、将来の夢の実現につなげたいです。

最後になりましたが、今回引率をしてくださった先生方、観光・グローバル推進課の皆さま、研修事業に携わっていただいた全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

川上中学校 3年 田中 千羽

今回の研修が初めてのホームステイとなり、オーストラリアに行くことができるわくわくと、ホストファミリーと会って英語が通じるのか不安な気持ちが出発前、入り混じっていました。山口宇部空港から羽田空港を経て、シドニー空港に着いた瞬間、興奮で胸が高鳴りました。セントラル駅からニューカッスル・インターチェンジ駅に着くと、私たちのホストファミリーが温かく迎え入れてくれました。自分のホストファミリーと対面したとき、少し怖かったけれど、車内でたくさん話し掛けてくれたので、不安な気持ちはなくなりました。



次の日、私たちはニューカッスルハイスクールに初めて通学しました。日本の学校と違うところがたくさんありました。まず、毎日4校時しかないところです。学校が終わるとすぐに家に帰ります。また、1校時と2校時の間に20分の休憩があり、そこで菓子や果物を食べます。次に、校則が緩いことです。スマホを持ってきて授業中に触り、制服ではない人もいました。それでも、先生は何も言いません。うらやましく思った反面、違和感も覚えました。ニューカッスルハイスクールの生徒は、とても優しい人たちばかりでした。ランチタイムに5、6人のチョコムースを買ってきてくれました。優しい人たちがいてくれたおかげで、毎日が楽しく過ごせたと思います。

休日、ホストファミリーと過ごした時間は、素晴らしいものになりました。土曜日は山に登りました。頂上から見た景色はとてもきれいでした。海の色がエメラルドグリーンのように、沖縄でしか見たことがないくらい美しかったです。

その後、ホストファミリーの親戚の人の誕生日パーティーがありました。日本では、多くて10人ぐらいですが、そこには50人以上いました。初めて会う人ばかりで、積極的に話し掛けられなかったけど、有意義な時間を過ごすことができました。

日曜日はホストファミリーと一緒にショッピングをしました。楽しかったです。家では、トランポリンやUNOをしたり、ボードゲームをしたりしました。これ

らのゲームで、ホストファミリーとの距離を縮めることができました。

今回の研修を経て、リスニング能力の低さが分かりました。何度言われても理解ができず、悔しい思いをたくさんしました。だからこそ、次に海外に行く時まで、聞き取れるようになるという新しい課題を見つけることができました。

また、貴重な体験をさせていただき得るものがたくさんありました。オーストラリアの生活を体験して、日本との違いを見つけることができました。その他に、積極的にコミュニケーションを取らないといけないということを学びました。私が考え事をしていてボーっとしていたときに、必ず「疲れているの?」「大丈夫?」と声を掛けてくれました。そこも日本との違いなんだなと思いました。

この研修では多くのことを学び、一生忘れないたくさんの思い出をつくることができました。私たちに素晴らしい経験をさせてくださった皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

藤山中学校 3年 長谷川 麻菜

オーストラリアに、ジュニアグローバル研修事業で行けると分かったとき、試験に受かったうれしさと、英語が公用語の中でホストファミリーとうまく話することができるのかという不安の二つの感情がありました。だけど、研修で他の子に話してみると、みんな話しやすく、心がホッとしました。



オーストラリアに着くと多国籍な国だな、と改めて感じました。電車でニューカッスル駅に着くと、日本の国旗を持って全員のホストファミリーが待っていてくれました。私は最後に名前が呼ばれ、私のホストファミリーの元に行ってみると、優しいホストファザー、ホストスチューデント、ホストシスターがいました。笑顔で迎えてくれて、車の中でたくさん話し掛けてくれました。そのおかげで、緊張していた心が少し軽くなりました。

次の日、初めてのオーストラリアでのハイスクール通学でした。ドキドキしながら学校に着くと、たくさんの生徒がいて中学生から高校生までの中高一貫の学校でした。制服がそれぞれ自分でコーディネートする形式で、スカートの制服の子もいたし、ズボンの子もいました。他にもランチを外で地面に座って食べたりしている子がいて「日本よりも自由だな」と思いました。

学校ではホストスチューデントのサラとクッキーを作ったり、ニューカッスル

ビーチが一望できる展望台に行ったりしました。楽しい行事しかなくて学校に行くのが楽しかったです。放課後もサラとビーチに行ったり、日本の友達やホストファミリー全員で博物館やトランポリン施設に行ったり、本当にいろいろな場所に行きました。

休日にホストシスターのアンナとサッカーを見に行くと、いっぱい試合をしている子がいて、規模の大きさにびっくりしました。夜はみんなでバーベキューをして、カンガルー肉を初めて食べました。そんなに癖がなくて、おいしかったです。

次の日は映画「ライオンキング」を見ました。英語版で難しかったけれど、感動しました。

ホストファミリーにお別れを言う日、ホストマザーは仕事なので、家でお別れを言いました。涙なしではお別れできないくらい悲しかったです。ホストシスターとは笑顔でお別れできましたが、ホストスチューデントと別れるときは誰よりも泣いてしまいました。でも、最後きちんとお別れできてよかったです。

今回オーストラリアへ研修に行き、日本と違う点をたくさん見つけることができました。オーストラリアの方たちはフレンドリーであり親切で、居心地が良かったです。私の次の目標は「単語だけで話すのではなく、英語の文法を使って話す」ということなので、これからもっと英語を勉強して、またオーストラリアに行きたいです。

常盤中学校 2年 藤田 真凧

約11時間のフライトの後、オーストラリアに着きました。その時は、これから始まる普段とは違う生活に楽しみな気持ちでいっぱいでした。そこから約3時間電車に乗り、ニューカッスルに着き、ついにホストファミリーに会いました。イモジェンもジョージーナも明るく話し掛けてくれて、すごくうれしかったです。それから1週間で本当に多くのことを体験し、学ぶことができました。その中で特に印象的なことがあります。



一つ目は、学校生活についてです。授業は75分間が4校時あり、午後3時には下校しました。クラス分けがされていないため、朝は全校生徒が同じ場所に集まり、先生や生徒からの連絡を聞きました。その時に、遅れてくる生徒もいました。並び方は日本とは違って整列をせず、授業中も日本よりも自由な感じでした。

また、1時間目と2時間目の間には休憩時間があり、菓子や果物を食べ、2時

間目と3時間目の間には昼食を取りました。その時も教室で食べるのではなく、外で床に座っている人が多かったです。朝食から休憩時間、昼食までの間が短く、始めはなかなか食べられなかったのですが、慣れると意外に食べることができ、自分でも驚きました。食後にもデザートが出ることが多く、おなかがすく暇がなかったです。

二つ目は食べ物についてです。ホストマザーのキムさんは、オーストラリアの有名な食べ物を出してくれました。その中でも、私は特にベジマイトが好きでした。行く前に、人によって好き嫌いが分かれる味だと聞いていたので、食べる時緊張したが、思っていたよりおいしくて驚きました。

他にも、カンガルーの肉やミートパイなどを初めて食べました。どれも日本にはない味だと感じました。また、日本の料理が親しまれていたことに驚きました。ショッピングセンターのフードコートにはすしの店があり、ホストファミリーのみんなも好きだと言っていました。周りにも食べている人がいてうれしかったです。

この10日間で、私は自分の「英語の力を磨く」という目標を達成できた気がします。初めはスピードが速く、一度では聞き取れない言葉があったけれど、だんだん慣れて一回で聞き取れるようになったからです。また、自分から積極的に話し掛けることもできたと思います。けれど課題も見つかりました。自分の知っている単語の量が少ないということです。私は何度も同じ表現を使わないように会話したいと思っていましたが、途中から同じ言い回ししか思いつかなくなりました。これからはもっといろいろな単語を覚え、使えるようにしたいと思います。

また、イモジェンやジョージナをはじめ、ホストファミリーの皆さんには本当にお世話になりました。いろいろな場所に連れて行ってもらったり、教えてもらったりして、たくさんの思い出ができました。本当の家族のように温かく迎えてもらって、うれしかったです。これからも連絡を取り続け、いつかまた会いたいです。

今回の事業に携わっていただいた皆さま、このような素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

厚東川中学校 3年 藤本 周彬

私は、この派遣事業で多くのことを学ぶことができました。さまざまな場面でオーストラリアと日本の違いを感じ、驚くことが多くありました。

まず、学校です。授業時間がとても長く、その代わりに休憩時間も日本の2倍



くらいありました。また、その分授業数が少なく、1日は4時間授業でした。しかも、授業中に正解すると、後で菓子がもらえていました。

給食は弁当でした。私の弁当はほぼ毎日、ハムチーズサンドイッチと、チョコミルク、ドリス、レーズンバーでしたが、その中でも驚いたのが、ハムチーズサンドの作り方です。なんと、バターは日本の2倍以上の量を塗るのです。どれだけのカロリーがあるのだろうと思いました。また、部活はなく、各自でクラブに通っていました。僕のホストファミリーのハリーは、サッカーをしていました。

最も驚いたのは、ハリーが勉強をするところはおろか、そういった言動すらもしなかったことです。聞いてみると、テスト前にしか勉強しないと言っていました。僕の勉強時間を聞かれ答えると、とても驚いていました。なぜなら彼の生活は、起床→シャワー等→食事→学校→下校→ゲーム→ダラダラ→食事等→ダラダラ→寝る、だったからです。

食生活に関しても、驚きを隠し切れませんでした。バターについては前述しましたが、他も恐ろしかったです。ホットドックや十分味の付いているミートパイに信じられない量のケチャップを入れて、朝ご飯は毎日チョコシリアルでした。僕はオーストラリアにいる間、一度もガリガリに痩せている人を見ていません。

また、たくさんのうれしいこともありました。書き切れないのでそのうちの一つを紹介します。まずは、ホストブラザーのアレックス（7）がお坊さんめくりを楽しんでくれたことです。私は競技かるたをしているので、その文化を少しでも理解してもらえて、とてもうれしかったです。家族全員で「Gentleman（殿）」や「Lady（姫）」などと言いながら楽しみました。

最後のお別れの日はとても悲しかったです。「絶対にまたいつか来るね」と約束し、別れました。本当に楽しい1週間でした。

この1週間で学んだことや、反省したいことをこれからの生活に生かしたいと思います。

このような有意義な機会を与えてくださった、観光・グローバル推進課の皆さんをはじめ、今回研修に携わってくださった全ての方々に心から感謝します。

慶進中学校 2年 益田 理澄

シドニーのきれいな街中に多様な人種が行き交っているのを見て、オーストラリアがグローバル化の進んだ国なのだなと思いました。

ニューカッスルハイスクールには、日本と違うところがありました。この学校は校則が日本に比べて優しいです。授業中スマホをい



じっていたり、遅刻する人がいたり、生徒の中にはピアスを着けたりしている人もいます。でも、彼らはものすごく真剣に授業に取り組みます。先生が問題を出したとき、学生はたくさん発表していました。私は、よく学校で恥ずかしがって発表しないということがあります。私も思ったことや質問を恥ずかしがらずにしたいと思いました。

オーストラリアの学校は一つの授業が75分と長いです。20分間の休憩時間は、果物やスナックを食べてから遊びます。この間にたくさんの友達と話したり、騒いだりしたことはとても良い思い出になりました。

日本語のクラスで、2人の生徒から手作りの名刺をもらいました。日本語であいさつしてもらってうれしかったです。遠い国の同級生と交流できるこの研修に参加して、良かったと思いました。

ホームステイ中、ジェスチャーを使って伝えられたことは、今回の派遣の目標の達成でした。また、今後の課題を見つけることができました。普段習っている英語より、ネイティブの会話はスピードが速く聞き取れないことが多かったです。カタカナ英語で発音したり、和製英語を使ったりと相手に伝わらないこともありました。

これからはインターネットなどを使って、毎日ネイティブな英語を聞きます。そして、本物の英語に近づきたいです。他にも、英語を自分からたくさん使うことで、コミュニケーション能力を上げ、積極的に海外の人と交流して将来についての視野を広げたいです。

最後に、この研修事業の担当者さま、引率していただいた恵藤先生、上利先生、ホストファミリーのジョンソン家の方たちに感謝します。

慶進中学校 2年 松井 都晏

私は、今回の研修でさまざまな貴重な体験をすることができました。

その一つは、日本語ゼロでの生活です。海外に行ったことはあったけれど、ホームステイをするのは初めてでした。ニューカッスルの駅から家までの車内でホストファミリーのジェーンが話し掛けてくれたけれど、やはり本物の英語はとても速くて、私の想像以上に聞き取れませんでした。でも、分からなかった時はゆっくり丁寧に話し掛けてくれたり、説明してくれたり、徐々に耳が慣れていきました。

また、ニューカッスルハイスクールでも大勢の女子生徒と好きなスポーツ、趣



味、特技など会話ができたときの喜びは大きかったです。たとえ、他国であっても「コンニチハ〜」と日本語で声を掛けてくれたり、一緒にゲームをしたり、昼食を食べたり、時には「英語が上手だね」と言ってもらえたり、掛け替えのない思い出がたくさんできました。

もう一つは、オーストラリアの学校生活です。ニューカッスルハイスクールはとても広く、休み時間は生徒たちが自由に校庭でおやつを食べたり、携帯を触ったり、日本より自由でかなり違っていました。日本の規律が厳しいのも、もちろん魅力があるし、オーストラリアの自由なのもいいなと相違点が見つけれられて良かったです。

また午後3時ごろ学校が終わり、放課後も無駄なくあらゆるところに行くことができました。そのうちに自然と会話も弾み、ミアや犬のパリスともとても仲良くなれて本当にうれしかったです。ニューカッスルの街は私が思っていたより都会で、きれいな公園、大きなショッピングモール、美術館、トランポリンセンター、路面電車などまるでヨーロッパみたいでした。

家での生活でも日本と全く違う部分があれば、日本文化が浸透している部分もありました。ホームステイ最終日の夕食は日本米でのお寿司料理だったのですが、「DO you eat Wasabi?」と聞かれ「No」と答えると「あなたたちは日本人じゃないわね!」と言われ、ショウガもみんな大好きそうで、それほど和食が好まれているということにうれしさを感じました。

学校でもほとんどの生徒が日本語の授業を受けていて、日本語で話し掛けてくれたり、自己紹介してくれたりしました。みんなどこでも誰に対しても、男女問わずフレンドリーで優しくて素晴らしいと思います。

最後に私は、この研修でもっと英語力を上げるという課題ができました。最初は「私の大好きな英語が話せる!」と楽しみでしたが、そう簡単なものではなく、なかなか聞き取れずもどかしい思い、悔しい思いの連続でした。でもこのオーストラリア人の美しい発音は本当に憧れです。心から「英語がペラペラになりたい!」と思わせられたきっかけになったし、私にとって大きな宝物となった研修です。だからこそ、この大好きな英語をもっと勉強し、英語力を上げ、英語を自分のものにし、発音を極め、またいつか海外で応用したいと思います。

そして私を温かく受け入れてくださった4人のホストファミリー、引率してくださった先生方、この場を準備してくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。Thank you very much for everything.

川上中学校 2年 村中 佑衣

ニューカッスル市の観光を終え、いざホストファミリーに出会うという時「英語だけの世界で本当に1週間過ごせるのだろうか」「連絡を取り合っていないホストファミリーと楽しく過ごせるだろうか」などの緊張や不安でいっぱいでした。



しかし、ニューカッスルIC駅で待っていたのは、日本の旗と「ようこそ」の紙を掲げた、笑顔いっぱいのホストファミリーの姿でした。その後の車の中でも、簡単な英語でいろいろ私に話し掛けてくれたので、これまでの緊張や不安は少しずつ消えていきました。

ニューカッスルハイスクールへの登校初日、初めての朝食は、オーストラリアの食べ物である、ベジマイトトーストやシリアルをいただき、そのどちらのおいしさにも感動しました。学校へはホストシスターのイモジェンとその友達と徒歩で通学しました。朝早く登校しなければならない日本と違い、学校が始まる時間も遅く、開始時間を過ぎても、まだ来ていない人もたくさんいて驚きました。それだけでなく、授業が終わるたびにあるリセスという休憩では、地面に座ってスナック菓子を食べたり、リンゴをかじったりと日本にはない自由な文化を楽しく体験できました。

また、ニューカッスルハイスクールの校舎は、築100年の大きな建物で、校舎の数も12個と多く、3階建てで、敷地内にはバスケットコートやトレーニングできる施設もあり、見るもの全てが新鮮でした。この大きな敷地で、私は、行かなければいけない教室がどこにあるのか分からなくなった時がありました。その時にすぐそばを通った男の子に尋ねると「案内してあげるよ」と、親切に教室まで一緒に歩いてくれました。この男の子のように、オーストラリアの方はとてもフレンドリーで、話し掛けやすく、会話を楽しめました。

私のホストファミリーは、カンガルーミートやラミントン、ババロアなど、オーストラリアの食べ物をたくさん用意してくださったり、ショッピングセンターに行きたいという私の願いを聞き入れ、何度も連れて行ったりしてくださいました。また、イモジェンの誕生日には、私と、イモジェンの妹、エイディーとで作った巻きずしなどをディナーに出して、パーティーをしました。「日本の食文化を伝える」という私の目標も達成できた上、イモジェンが大変喜んでくれたため、うれしかったです。

この研修では、私の今後の課題もいくつか見つかりました。その中の一つは、私の英語をもっと使えるレベルにするということです。通学中、話そうと決めて考えた文は話せても、その場で疑問に思ったことを即座に英語にできないという

ことが多くありました。そのため、日常で使える単語などをもっと覚えて、将来の自分のために、自信を持って話せるようになろうと思います。

最後になりましたが、私に一生忘れられない素晴らしい思い出と、未来につながる課題を与えてくださった観光・グローバル推進課の皆さま、またご協力いただいた多くの方々、本当にありがとうございました。

さらに、英語が未熟な私を優しく、温かく受け入れてくださった4人のホストファミリー、すてきなおもてなしをありがとうございました。

私は10月に、ホストファミリーとしてオーストラリアの生徒を受け入れるので、私がしていただいたことに感謝し、日本の、宇部の魅力を存分に伝えながら、恩返しをしたいと思います。

ジュニアグローバル研修を終えて

私自身、オーストラリアを訪問するのは今回が初めてで、引率とは言え、どんなことに出会えるのかとてもドキドキしていました。そして、10人の派遣生が、オーストラリアで過ごす10日間の研修でどんな成長を遂げるのか、少し不安に感じながらも、やはり楽しみにしていました。

飛行機で降り立ったシドニーは、大変美しい都市で、車窓から見える建物や風景は近代的なものと歴史を感じさせるものが融合して、子どもたちも写真を撮るのに一生懸命になっていました。しかし、聞こえてくる英語はとても速いうえ、私たちが授業で触れている表現や発音とは違うオーストラリアならではの英語に戸惑いながらも、フードコートで自分の食べたいものを自分たちのもっている英語力で伝え、オーストラリアでの初めての食事を楽しみました。

宇部市の姉妹都市であるニューカッスルへは約2時間半電車に乗り、夕方到着しました。辺りはもう真っ暗になっていましたが、ニューカッスルハイスクールのコーディネーターであるジョディーさんをはじめ、ホームステイでお世話になるホストファミリーのみなさんに笑顔で迎えていただき、旅の疲れが一気にとれたのを思い出します。子どもたちも温かい歓迎を受け、ちょっぴり抱いていた不安を忘れ去ったに違いありません。

次の日からは、ホームステイ先から徒歩やホストの車、電車などそれぞれの通学方法で学校に通い、10人一緒に日本語の授業や音楽、家庭科の授業、コンピュータの授業などを受けながら、現地の学生たちと交流しました。休み時間になると、多くの学生たちが近くに来て話しかけてくれ、派遣生はうれしそうに笑顔で対応していました。ハイスクールでは10人同じこ



とを体験しましたが、心に残った場面は派遣生それぞれに異なっていることでしょう。私は、中でも男子が体験したオーストラリアの原住民（アボリジニー）の楽器『ディジリドゥー』の演奏、女子が体験したスピリチュアルなダンスが印象に残っています。ニューカッスルハイスクールは、アボリジニーの文化をカリキュラムに取り入れている数少ない学校で、私たちは、この度、見たり聞いたりするだけでなく、実際に演奏したり踊ったりと貴重な体験をさせていただきました。そして、派遣生たちも、ニューカッスルの市長さんやハイスクールの学生さんたちに宇部のことを英語でしっかりと伝えることができました。緊張もあったことと思いますが、落ち着いて大変立派に発表することができていました。ハイスクールに通う間、ホストファミリーには家族と同じように愛情をかけていただ

いたおかげで、派遣生は6日間をみんな笑顔で過ごしました。あっという間に時間が過ぎ、ハイスクール最後の日は、ホストブラザー、ホストシスターたちと動物園を訪れました。コアラやウォンバット、ワラビーなどを間近で見ることができ、みんな大喜びでした。そして、お昼からは動物園内の公園で、みんなで走り回って遊びました。本当に楽しそうでした。

次の日の朝は、いよいよホストファミリーとのお別れです。平日にも関わらず、駅まで派遣生を見送りにたくさんのホストファミリーが来てくれました。中には、涙で別れを惜しむ子どもたちの姿もありました。私たちが不安なく、笑顔で6日間いろいろなことに挑戦できたのも、ホストファミリーの支えがあったからです。忘れられない思い出ができました。



そして、オーストラリア最終日は、再びシドニーで過ごしました。研修1日目と同じフードコートで食事をした後、オペラハウスやハーバブリッジの風景を楽しみながら、日本人ガイドの方に、シドニーを治めたマッコリー総督の偉業や、イギリスのオーストラリア入植の歴史を教えてくださいました。シドニーは、本当に美しい街でまた訪れたい街の一つになりました。

本研修の成果は、10人の派遣生全員が、初めてのことに気後れすることなく挑戦し続けたこと、そして笑顔で積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を身に付けたことです。10日間の間には、楽しいことだけでなく、不安に思うこと、英語がなかなか通じず悔しい思いをしたこともあったと思います。しかし、10人全員が、下を向くことなく前向きに様々なことをこなしたことで、英語を話す自信がついたのではないかと思います。

帰国後の研修会では、それぞれの目標について達成状況を発表し、「さらに自分の英語を磨いていきたい」などと、新たな目標を立てていました。これからは、宇部市もこれまで以上に外国人が訪れる都市になるでしょうし、子どもたちは日本人とだけでなく世界の人々と一緒に仕事をしたり、交友関係を築いたりすることになるでしょう。そのようなとき、今回のオーストラリアでの研修がきっと後押しをしてくれることになるでしょう。

最後になりますが、日本、オーストラリアでお世話になった関係の皆様へ感謝を申し上げ、帰国のご報告とさせていただきます。

ジュニアグローバル研修を終えて ～A Bridge between Ube and Newcastle～

1. はじめに

自分自身、今回で6回目のオーストラリア訪問になり、宇部市の代表生徒の引率も2回目ということで、前回の経験を生かし、生徒達にとって素晴らしい研修になるよう、気合い十分で臨みました。壮行会の時に申し上げた通り、生徒達が充実した研修を終え、笑顔で帰国できることを一番の目標とし、自分のできることを精一杯しようと心掛けました。実に中身の濃い、それでいてあっという間の10日間でしたが、ここで振り返ってみたいと思います。

2. ニューカッスルハイスクールでの研修

担当のジョディ先生は、高校生の時に長崎に一年間、交換留学生として過ごされていた方で、日本語はもちろん、日本の文化や生活習慣も熟知されていました。お陰で、私たちに対するサポートが非常に細やかで、完璧でした。滞在中のプログラムも素晴らしい構成で、本当に充実した研修ができ、心から感謝しています。

初日の朝、校庭で行われた全校集会で派遣生達は全校生徒に紹介されました。その後は、基本的にホームステイ先の生徒と共に実際の授業を受けました。Myers先生の音楽の授業では、先住民アボリジニの伝統楽器であるディジュリドゥを演奏しました。Ellis先生の家庭科ではオーストラリアの家庭の味、アンザックビスケットを作りました。アボリジニの文化を学ぶ授業ではアボリジニのダンスを学んだり、ブーメランを思い切り投げたりしました。Biddle先生の技術の授業ではExcelを使った表計算の方法を学びました。8日(木)の午後はスポーツをすることになっており、私たちはDeaves先生に案内され、City walkingに参加しました。美しい町並みと絶景のビーチを観ながら、約5キロを楽しく歩きました。



もちろん全ての授業は英語で行われているので、最初の頃は英語が聞き取れず、ほとんど分からなかったと思います。そんな中で、なんとか理解しようと懸命に努力すること自体、非常に貴重な経験になっていました。授業の中で、自分の考えを相手に英語で伝えることに四苦八苦しながらも、なんと

かコミュニケーションをとるプロセスそのものが、この研修での最大の財産になるのではないのでしょうか。

ジョディ先生の日本語の授業では最初に、事前研修で一生懸命準備していたプレゼンを披露しました。事前研修での練習の甲斐あって、とても上手に出来ました。特にラジオ体操にはかなり衝撃を受けていたようです。その後、日本語の学習の活動として、オーストラリアの生徒達の手作りの名刺を受け取り、お互いの自己紹介を行うという活動をしました。皆笑顔で、楽しそうに会話していました。

授業時間は基本的に1時間が75分と、とても長かったです。一日の授業時数は最大4時間授業でした。前回訪問したメリウェザーハイスクールは1時間が約50分の6時間でしたので、学校によって授業時間は異なるようです。2校時終了後 recess という所謂おやつ休憩の時間があり、売店でお菓子や軽食が買えることや、放課後の部活動は無く、午後3時には放課になることなど、日本とはずいぶん違う学校の環境に、生徒達は驚いていました。

各教室の設備はうらやましい限りで、ほとんど全ての教室にパソコンとプロジェクターが設置されており、ICTを大いに活用していました。

3. ニューカッスル市長表敬訪問

8月9日(金)、ニューカッスル市長表敬訪問の日です。少し早めに着いた私たちはCity Hall 前の美しい公園でしばし散策しました。そしていよいよ面会の時。2階の Hunter Room という、VIP 用ではないかと思われる豪華な大会議室に通され、緊張感も最高潮に。とても美味しいスコーンとお茶を頂いていたら、颯爽と市長が登場。笑顔が優しく、とても気さくで大変素敵な方でした。しかも2年前の訪問の際にお会いしたことを覚えておられたことに感動しました。丁寧なご挨拶を頂いた後、満を持してプレゼンテーション発表の時が来ました。巨大なスクリーンが用意されており、まるで企業のプレゼンのようなものでした。猛練習の成果でしょうか、派遣生達は堂々たる態度で発表を行いました。リコーダーと歌のプレゼント(茶摘み)も上々の出来で、大変喜んで頂きました。その後記念のお土産を一人ひとりに笑顔で手渡しされ、握手をし、言葉をかけて下さいました。今回の訪問でも大幅に時間をとって下さり、約1時間あまりの大変有意義な時間を過ごしました。

4. お別れの会

8月12日(月)、ついに最終日です。午前中はホストスチューデントと日本の生徒達と一緒に Blackbutt Reserve という自然公園にピクニックに行きました。無料で入れるとは思えないほど充実した施設で、立派な動物園のようでした。コアラ、ウォンバット、コカトゥー、カンガルーなどの動物の一挙一動に皆歓声を上げていました。生徒達はお互いもうすっかりうち解けて

おり、公園の遊具で一緒にキャーキャー言いながら遊んでいる様子を見るにつけ、ああ、この研修は本当に素晴らしいなあと、しみじみ思いました。

そしてお別れ会。生徒達だけでなく、ホストファミリーも参加しました。校長先生から心温まるお別れの言葉のご挨拶を頂きました。「皆さん、自分のことを誇りに思ってください。そして自信をもってください。」とお褒めの言葉を頂きました。そして一人ひとりに記念のお土産を手渡し、固く握手を交わしました。その様子を、まるで本当の我が子のようにホストファミリーの皆さんが温かく見守っていました。本当にあつという間の研修でしたが、深い絆を育み、多くの得難い経験を得ることができました。

5. おわりに

私もジョディ先生のお宅にホームステイしました。ニューカッスル中心部から車で約40分離れた Lake Macquarie (マコーリー湖) の湖畔にあるとても素敵なお宅でした。窓からの眺めは絶景で、日の出の写真を毎朝撮りました。

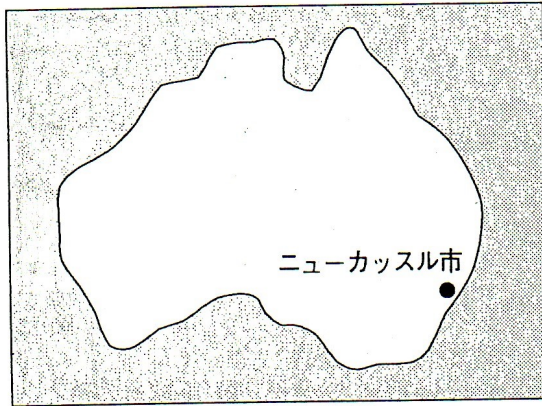
家族も素敵なお方ばかりでした。とてもシャイだけど心優しい Warren さん。一緒に釣りをしました。11歳の Jessica ちゃん。本当に今どきの女の子で、最初はなかなか話せませんでした。最後にはトランプで遊べるくらい仲良くなれました。そして Jodie さん。彼女にはもう感謝しかありません。今回の研修全てに関して、微に入り細にわたって労を惜しまず尽力してくださいました。週末も多くの時間、パソコンに向かいながら授業の教材研究や、私たちの研修の準備などをしていました。料理の腕も一級品で、毎回の食事が絶品でした。本人にも直接言いましたが、この場を借りてもう一度感謝の意を申し上げたいと思います。

今回の貴重な研修を通じて、派遣生達にはニューカッスルに新しい家族が出来ました。この絆を絶やすことなく、二つの地の架け橋になれるよう、さらに大きく成長し、飛躍していつてくれることを期待し、研修の振り返りしたいと思います。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい機会を与えてくださった宇部市、宇部市観光・グローバル推進課、宇部市・ニューカッスル姉妹都市友好協会、宇部市教育委員会、そして研修派遣に携わって下さったすべての皆様に、心から感謝申し上げます。今後も宇部市とニューカッスル市の姉妹都市関係が末永く続き、両市がますます発展していくことを祈念しております。ありがとうございました。



ニューカッスル市の概要



ニューカッスル市は、オーストラリアの南東部、ニューサウスウェールズ州の東海岸部中央に位置し、シドニーの北東約 160 k mにあるハンター地方の首都で、人口約 15 万 5 千人（2009 年現在）、気候は温暖で、州内第 2 の産業都市です。

かつては、市内でも採掘されていた石炭は、製鉄所や造船その他の関連工業を興し、臨海産業都市として発展してきました。

市の北西約 100 k mの背後に広がる豊かなハンター炭田は、オーストラリアで最初に開発された歴史を持っています。

石炭による豊富な電力により、近年はアルミニウムや車両、化学製品などの産業が興っています。また、ハンターリバー流域は、農業や酪農が盛んであり、特にハンターワインは有名です。

市の中心部には、大学を始め高い水準の教育、文化、体育施設があり、さらに、美しい港、公園を有する都市で、毎年 200 万人の観光客が訪れます。

姉妹都市提携の背景

昭和 54 年（1979 年）3 月に定められた宇部市総合計画基本構想において、「国際社会の調和ある発展に寄与し、姉妹都市提携による総合的な交流を展開すること」を掲げ、9 カ国 21 都市を候補として、調査・検討を進めました。

一方、市内主要企業においては、昭和 51 年（1976 年）以来石油にかわるエネルギーとして、石炭をオーストラリアから輸入し、経済交流が続いていました。

このような情勢の中で、昭和 55 年（1980 年）7 月、22 人の市民有志による豪州親善視察団が、オーストラリアの数都市を視察調査し、帰国後、姉妹都市としてニューカッスル市が最適である旨の報告が提出されました。

その後、種々検討のうえ、同年 9 月、市議会の賛同を得て、ニューカッスル市との姉妹都市を決定し、11 月 21 日にニューカッスル市において調印式を行いました。

主な交流経過

姉妹都市提携以来、教育・文化、青少年、スポーツ、経済等幅広い交流を行ってきました。この間、昭和 60 年（1985 年）には、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会が設立され、市民レベルの交流が活発に展開されるようになりました。

青少年交流については、昭和 61 年度から高校生研修派遣、平成 3 年度から中学生研修派遣が実施され、交流の重要な分野の一つとなっています。

文化交流については、これまで提携 10 周年、15 周年、20 周年、25 周年、30 周年といった節目の年に文化訪問団を派遣し、交流を深めています。

宇部市観光・シティプロモーション推進部
観光・グローバル推進課

〒755-8601 宇部市常盤町一丁目7番1号
T E L 0 8 3 6 - 3 4 - 8 1 3 7
F A X 0 8 3 6 - 2 2 - 6 0 8 3
E-mail kokusai@city.ube.yamaguchi.jp